The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 佐藤眞一教授　研究・活動概要 |
| Author(s) | |
| Citation | 生老病死の行動科学. 2022, 26, p. 69-95 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/87661 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 佐藤眞一教授　研究・活動概要

佐藤眞一教授は、昭和６２年３月早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位修得退学後、同年４月に財団法人東京都老人総合研究所の研究員として採用され、１０年間高齢者研究に従事した。平成９年４月に明治学院大学文学部心理学科助教授に採用され、平成１６年４月に同大学心理学部教授に昇任した。その間、平成１１年に埼玉医科大学より博士号を授与されている。また、平成１４年から平成１５年にかけてドイツの Max Planch Institute for Demographic Research に上級客員研究員として所属して研究を行った。平成２１年１０月１日に国立大学法人大阪大学大学院人間科学研究科に教授として着任し、令和４年３月３１日限りで定年退職するものである。

この間、長年にわたって大阪大学の研究との教育進展に貢献してきた。佐藤教授の研究領域は、生涯発達心理学、心理老年学の幅広い領域にわたる。中心的な研究内容は、高齢者の心理学的研究と、認知症に関する心理学的研究であった。

大阪大学着任までは定年退職に注目し、生きがいと幸福感を評価する尺度である対人志向性尺度と総合心理適応度尺度「寿限無」の開発、および財団法人シニアプラン開発機構における１５年間にわたる企業従業者と定年退職者の生活と生きがいに関する定期調査に携わった。また、東京都老人総合研究所「中年からの老化予防・総合的長期追跡研究(TMIG-LISA)」におけるライフイベントに関する分担研究、aging に対する自覚に注目した主観年齢と年齢アイデンティティ、家族関係の変化、高齢者施設利用者の個別事例分析等の研究を行ってきた。

大阪大学に着任後は孤立と孤独、孤高、知恵といった、近年関心が高まっている課題にいち早く取り組んできた。認知症者とその家族に関する心理学的研究は、実験室実験、質問紙を用いた調査研究だけではなく、実際に施設介護の現場に足を運び事例研究を並行して実施してきた。研究対象は認知症高齢者だけでなく、施設の介護職員のメンタルヘルスも視野に入れており、施設の看取りに関する研究は、学会だけでなく介護業界でも注目されている。特に、施設介護におけるパーソナルケア分析法と日常会話式認知機能評価(CANDy)の開発成果は、大阪府に提供され、ホームページからダウンロード可能なパンフレットとなり活用されている。

佐藤教授はこれまでに多数の著作を表してしているが、執筆した学術論文は１２８編、単著・

編著・監修・分担執筆等を含む著作は１０２編を数えるが、そのうち 7 編が翻訳され海外でも出版されている。また、総説・解説・報告書等も９０編以上にのぼる。教育に関しては、前任校の明治学院大学および大阪大学の学部・博士前期課程・同後期課程にて多数の学生・院生を指導してきたが、特に、大阪大学着任後に指導し、博士の学位を取得した学生は１５名を数える。

大阪大学着任後、学内では、大阪大学人権委員会委員、大阪大学ハラスメント相談員、人間科学研究科行動学系幹事教授、人間科学研究科研究倫理委員会委員長、人間科学研究科学生支援室長を歴任し大阪大学および人間科学研究科の運営面に貢献してきた。また、平成２２年から現在に至るまで大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター兼任教授、また、平成３１年からは大阪大学 EDGE プログラム「認知症横断プロジェクト」、およびその後継として令和２年から大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)の基幹プロジェクト「一人ひとりの死生観と健康自律を支える超高齢社会の創生」の研究代表者として大阪大学と人間科学部・人間科学研究科の研究と教育を支えてきた。

学外の活動に関しては、学術面においてこれまで日本老年行動科学会会長、日本老年学会幹事、日本老年社会科学会常任理事、日本応用老年学会常任理事、日本老年臨床心理学会常任理事、日本認知症ケア学会評議員、日本心理学会代議員を務めている。また、Geriatrics Gerontology International 誌の Associate Editor、日本老年精神医学会編集参与、日本発達心理学会常任編集委員などを務めてきた。学会大会運営に関しては、日本老年行動科学会第８回、第２２回大会長、日本老年社会科学会第５５回大会長、日本応用老年学会第１１回大会長、日本老年臨床心理学会第２回大会長を務めた。また、日本学術会議特別研究員等審査会専門委員、国際事業委員会書面審査委員を務めている。平成２５年には、日本老年行動科学会に対する貢献に対して大阪大学総長表彰を受けた。

社会貢献に関しては、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事、大阪府社会福祉事業団顧問・理事、I For You Japan 副理事長、健康・介護コンシュルジュ協会理事長、福祉環境住環境アソシエーション理事、日本モンテッソーリケア協会理事、日本認知症ケア学会・認知症ケア専門士資格認定協会試験委員、文部科学省・厚生労働省・公認心理師試験委員、放送大学客員教授などを通じて、高齢者福祉や死生学に関わる啓発活動にも尽力してきた。

以上のように佐藤眞一教授は、研究、教育、大学運営だけでなく社会への貢献を通じて大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科の充実と発展に尽くしてきた。大阪大学大学院人間科学研究科教授会はその功績をたたえ、佐藤教授に大阪大学名誉教授の称号を贈ることを決定した。

# 佐藤眞一教授　研究業績一覧

**著書**

1. 佐藤眞一著 (1990) 『老後を健やかに』埼玉県朝霞市消費生活通信講座テキスト.
2. 佐藤眞一・米山淑子編 (1996) 【事例集】高齢者のケア 第 4 巻 不安／訴え／心気症状』中央法規出版.
3. 日本老年行動科学会監修，井上勝也・大川一郎編集代表，荒木乳根子・大山博史・岡本多喜子・小池眞規子・佐藤眞一・高橋正雄・谷口幸一・横山博子編 (2000) 『高齢者の「こころ」事典』中央法規出版.（第 1 章「心の加齢」，第 6 章「心の測定」担当）
4. 佐藤眞一編著 (2000) 『介護カウンセリングの事例』一橋出版.
5. 佐藤眞一監修 (2004) 『富美岡荘物語』中央法規出版.
6. 井上勝也監修，秋山美栄子・荒木乳根子・佐藤眞一・梓田俊邦・中村淳子編 (2005) 『高齢者の心理がわかるＱ＆Ａ：ほんとうの高齢者を知るための 66 の疑問』中央法規.（第 9 章「認知症」担当）
7. 佐藤眞一監修 (2006) 『「結晶知能」革命』小学館.
8. 佐藤眞一編著 (2006) 『事例のまとめ方と発表のポイント』中央法規出版.
9. 谷口幸一・佐藤眞一編著 (2007) 『エイジング心理学』北大路書房.（第２章「生涯発達とその研究法」，第３章「高齢期のサクセスフル・エイジングと生きがい」執筆）
10. 佐藤眞一著 (2008) 『仕切りたがる人―相手を見抜くタイプ心理学―』毎日コミュニケーションズ.
11. 佐藤眞一・本多-ハワード素子著 (2010) 『メガホリズム（過組織症）―組織に巣食う原罪―』阪急コミュニケーションズ.
12. 佐藤眞一・大川一郎・谷口幸一編著 (2010) 『老いとこころのケア―老年行動科学入門―』ミネルヴァ書房.（第 7 章「老いの生活への適応過程」担当）
13. 佐藤眞一監修 (2010) 『調査・事例研究から読み解く高齢者の心と体 ケアに生かす Q&A』コミュニティケア臨時増刊号，日本看護協会出版会.
14. 生活・福祉環境づくり２１・日本応用老年学会編著（編集委員会：柴田　博・安藤孝敏・川瀬健介・佐藤眞一・白澤政和・平林規好・渡辺修一郎）(2011) 『ジェロントロジー入門』社会保険出版社.（第 3 章「心の健康編」編著）
15. 佐藤眞一監修 (2011) 『色彩福祉検定 1 級・2 級公式テキスト』一般社団法人日本色彩環境福

祉協会・誠文堂新光社.（総 136 頁）
16. 佐藤眞一著 (2011)『ご老人は謎だらけ　老年行動学が解き明かす』光文社新書.（総 196 頁）
17. 佐藤眞一著 (2012) 『認知症「不可解な行動」には理由がある』ソフトバンク新書.（総 269 頁）
18. 生活・福祉環境づくり 21・日本応用老年学会編著（編集委員会：柴田　博・安藤孝敏・川瀬健介・佐藤眞一・白澤政和・平林規好・渡辺修一郎）(2013) 『ジェロントロジー入門』（『高齢社会の「生・活」事典』改訂）社会保険出版社.（第 3 章「心の健康編」編著）
19. 佐藤眞一監修 (2014) 『認知症ケア事例集—認知ケア・よりそうケアのすすめ方—』大阪府.（総 74 頁）
20. 佐藤眞一・高山　緑・増本康平著 (2014)『老いのこころ—加齢と成熟の発達心理学』有斐閣.（総 298 頁）
21. 日本老年行動科学会監修，大川一郎編集代表，佐藤眞一ほか編集 (2014) 『高齢者のこころとからだ事典』中央法規.（総 626 頁）（１．こころの加齢，２．自己，５．こころのケアの編集を担当）
22. 佐藤眞一監修代表 (2015) 『3 ステップで理解する　認知症　相談・対応のポイント』，大阪府.（総 16 頁）
23. 佐藤眞一著 (2015) 『後半生のこころの事典』CCC メディアハウス.（総 266 頁）
24. 一般社団法人健康介護コンシェルジュ協会監修，佐藤眞一監修代表 (2015)『健康介護コンシェルジュ検定 3 級公式テキストブック』株式会社ど～も（総 175 頁）
25. 一般社団法人健康介護コンシェルジュ協会監修，佐藤眞一監修代表 (2015)『健康介護コンシェルジュ検定 3 級お助けハンドブック』株式会社ど～も（総 271 頁）
26. 佐藤眞一・権藤恭之編 (2016) 『よくわかる高齢者心理学』ミネルヴァ書房.（総 204 頁）
27. 佐藤眞一監修 (2017) 『老いた親のきもちがわかる本』朝日新聞出版.（総 191 頁）
28. 佐藤眞一著 (2018)『認知症の人の心の中はどうなっているのか？』光文社新書.（総 292 頁）
29. 佐藤眞一編 (2018) 『シリーズ心理学と仕事 6 高齢者心理学』北大路書房.（総 146 頁）
30. 佐藤眞一編 (2019)『認知症ケアプログラム—その人らしく過ごせるように—』ダスキンライフケア事業部.（総 66 頁）
31. 佐藤眞一 監修・なとみみわ マンガ (2019) 『まいにちが、あっけらかん—高齢になった母の気持ちと行動が納得できる心得帳—』つちや書店.（総 111 頁）
32. 山川みやえ・土岐博・佐藤眞一編 (2019) 『ほんとうのトコロ、認知症ってなに？』大阪大学出版会.（総 243 頁）

33. 佐藤眞一 監修 (2019) 『マンガでわかる　認知症の「困った」をズバッと解決！』洋泉社新書.（総 191 頁）
34. ニコニコルソン・佐藤眞一著 (2020) 『マンガ　認知症』ちくま新書.（総 286 頁）
35. 大庭輝・佐藤眞一著 (2021) 『認知症 Plus コミュニケーション』日本看護協会出版会.（総 181 頁）
36. 佐藤眞一編 (2022) 『心理老年学と臨床死生学—心理学の視点から考える老いと死』ミネルヴァ書房.（総 300 頁）

**翻訳書**

1. 사토 신이치（佐藤眞一）이정환（イ・ジョファン）訳 (2007) 『나이를 이기는 결정지능（結晶知能革命）』韓国：비전하우스（ビジョンハウス）.（総 222 頁）
2. 佐藤眞一（林美琪訳）(2014) 『父母老後為什麼總是那麼固執？聽見老年人心理和行為轉變背後的心聲（ご老人は謎だらけ　老年行動学が解き明かす）』台湾：木馬文化.（総 199 頁）
3. 佐藤眞一（吳佩俞訳）(2016) 『老後生活心事典（後半生のこころの事典）』台湾：晨星.（総 272 頁）
4. 佐藤眞一（林美琪訳）(2016) 『為什麼任性的父母更長壽？理解老後行為和心理的轉變，和父母相處得更自在愉快（ご老人は謎だらけ　老年行動学が解き明かす）改題　第 2 版』台湾：木馬文化.（総 200 頁）
5. 佐藤真一（吳佩俞訳）(2017) 『老后生活心事典（後半生のこころの事典）』中華人民共和国：上海社会科学院出版社.（総 264 頁）
6. 佐藤真一監修（李友君訳）(2018) 『老爸老媽到底在想什麼?（老いた親のきもちがわかる本）』台湾：大是文化.（総 336 頁）
7. 妮可．妮可兒森・佐藤真一（鄒玟羚・高詹燦訳）(2021) 『爸媽怎麼突然變了樣？失智症患者心理分析＆照護技巧完全圖解（マンガ認知症）』台湾：東販出版.（総 279 頁）

**分担執筆・事典・辞典**

1. 佐藤眞一 (1991) 成人期，林　洋一・榎本博明編著『現代心理学講義』北大路書房，pp.30-35.
2. 佐藤眞一 (1991) 老年期，林　洋一・榎本博明編著『現代心理学講義』北大路書房，pp.35-43.

3. 佐藤眞一・下仲順子 (1991)「高齢者とともに生きる時代」を考える，松島　鈞・太田善麿編著『思老教育の基礎と課題』群書，pp.338-351.
4. 佐藤眞一・井上勝也 (1992) 老人の人格理解，安香　宏・大塚義孝・村瀬孝雄編『臨床心理学大系　第６巻　人格の理解②』金子書房，pp.292-312.
5. 佐藤眞一・下仲順子 (1992) 現代社会における成人の自己実現と社会生活，東　洋・繁多進・田島信元企画編集『発達心理学ハンドブック』 福村出版，pp.1151-1164.
6. 佐藤眞一 (1993) 老人観，京極高宣・小田兼三編集委員代表『現代福祉学レキシコン』雄山閣，p.334.
7. 佐藤眞一 (1993) 老人の人格, 井上勝也・木村　周編『新版　老年心理学』朝倉書店, pp.54-71.
8. 佐藤眞一 (1993) パーソナリティと適応, 柴田　博・芳賀　博・古谷野　亘・長田久雄編『老年学入門』川島書店，pp.141-150.
9. 佐藤眞一 (1993) 『現代サラリーマンの生活と生きがい』，斉藤茂太監修，財団法人シニアプラン開発機構編，ミネルヴァ書房.
10. 佐藤眞一・井上勝也 (1994) 老年の心理，伊藤隆二・橋口英俊・春日　喬編『講座　人間の発達と臨床心理学　第６巻　老年期の臨床心理学』駿河台出版，pp.1-39.
11. 佐藤眞一 (1996) 異常行動・他 18 項目，浜口晴彦編『現代エイジング辞典』早稲田大学出版部.
12. 佐藤眞一 (1997) 老年期のパーソナリティ，井上勝也編『最新介護福祉全書　第８巻　老人の心理と援助』メヂカルフレンド社，pp. 58-83 .
13. 佐藤眞一 (1997) 記憶にみられる加齢現象, 谷口幸一編『成熟と老化の心理学』コレール社, pp. 61-77.
14. 佐藤眞一 (1998) 高齢期の性格の諸問題，詫摩武俊監修『性格心理学ハンドブック』福村出版，pp. 499-503.
15. 佐藤眞一 (1998) 高齢者福祉の心理，佐藤泰正・山根律子編著『福祉心理学』学芸図書，pp. 98-117.
16. 佐藤眞一 (1999) 高齢期の知覚・認知機能，東　清和編『エイジングの心理学』早稲田大学出版部，pp. 1-30.
17. 佐藤眞一 (1999) 高齢期の痴呆，東　清和編『エイジングの心理学』早稲田大学出版部，pp. 65-88.

18. 佐藤眞一 (2000) 施設介護とは何か，社会福祉法人慈心会監修『【実践研究】痴呆性高齢者のメンタルケア』メヂカルフレンド社，pp.201-219.
19. 佐藤眞一 (2001) 老人の若者観／老人の家族観，國分康孝監修『現代カウンセリング事典』金子書房，p.376.
20. 佐藤眞一 (2002) 引退後の生活，長崎　勤・古澤頼雄・藤田継道編著『臨床発達心理学概論：発達支援の理論と実際』ミネルヴァ書房，pp.106-110.
21. 佐藤眞一 (2002) 介護問題，長崎勤・古澤頼雄・藤田継道編著『臨床発達心理学概論：発達支援の理論と実際』ミネルヴァ書房，pp.111-114.
22. 佐藤眞一 (2002) 職業場面での問題への対応，長崎勤・古澤頼雄・藤田継道編著『臨床発達心理学概論：発達支援の理論と実際』ミネルヴァ書房，pp.252-255.
23. 佐藤眞一 (2002) 老人介護場面・老人施設での問題への対応，長崎勤・古澤頼雄・藤田継道編著『臨床発達心理学概論：発達支援の理論と実際』ミネルヴァ書房，pp.255-260.
24. 佐藤眞一 (2003) 施設における介護，柴田　博・長田久雄編『老いのこころを知る』ぎょうせい，pp.122-135.
25. 佐藤眞一 (2005) 高齢者への心理的支援，下司昌一編集代表『カウンセリングの展望ー今，カウンセリングの専門性を問うー』ブレーン出版，pp.381-392.
26. 佐藤眞一 (2008) 高齢者と加齢をめぐる心理学的考察の歴史と展望，権藤恭之編『高齢者心理学』朝倉書店，pp.1-22.
27. 佐藤眞一 (2008) 老年期における自己の発達，榎本博明編『自己心理学２　生涯発達心理学へのアプローチ』金子書房，pp. 226-244.
28. 佐藤眞一 (2008) 介護カウンセリング，國分康孝監修『カウンセリング心理学事典』誠信書房，pp.345-347.
29. 佐藤眞一 (2009) 充実した高齢期の実現を目ざして，（財）ダイヤ高齢社会研究財団編『超高齢社会を生きる―介護保険・介護予防の今とこれから―』ダイヤ財団新書 29，pp. 80-108.
30. 大藪泰・佐藤眞一 (2009) 青年と成人の発達，西本武彦・大藪泰・福澤一吉・越川房子編著『現代心理学入門―進化と文化のクロスロード―』川島書店，pp. 168-190.
31. 佐藤眞一 (2010) 生涯発達理論，大内尉義・秋山弘子編集代表『新老年学［第３版］』東京大学出版会，pp. 1624-1629.
32. 佐藤眞一 (2011) 百寿者，佐藤泰正・渡邉映子・大川一郎編著『高齢者の心理』おうふう，pp. 22-23.

33. 佐藤眞一 (2012) 高齢者の認知症等への支援，日本発達心理学会編／無藤隆・長崎勤責任編集『発達科学ハンドブック６　発達と支援』新曜社，pp. 321-330.

34. 佐藤眞一 (2016) 条件付け・他 11 項目，一般社団法人認知症ケア学会認知症ケア用語辞典編纂員会編『認知症ケア用語辞典』ワールドプランニング.（総 410 頁）

35. 佐藤眞一 (2017) 高齢期の危機は心構えで乗り越える―ライフイベントの対処法，NPO 法人大阪府高齢者大学校編『高齢者が動けば社会が変わる　NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦』ミネルヴァ書房，pp. 97-119.

36. 柏木　宏・佐藤宏一・佐藤眞一・陳　礼美・藤田綾子・古矢弘道・堀　薫夫・三田保則・和田征士 (2017) 超高齢社会への NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦，NPO 法人大阪府高齢者大学校編『高齢者が動けば社会が変わる　NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦』ミネルヴァ書房，pp. 214-230.

37. 柏木　宏・佐藤宏一・佐藤眞一・陳　礼美・藤田綾子・古矢弘道・堀　薫夫・三田保則・和田征士 (2017) 自分の学習（楽しみ）と社会貢献をつなげるカリキュラム，NPO 法人大阪府高齢者大学校編『高齢者が動けば社会が変わる　NPO 法人大阪府高齢者大学校の挑戦』ミネルヴァ書房，pp. 231-250.

38. 中里和弘・舞鶴史絵・鈴木真智子・佐藤眞一 (2018) 在宅がん患者と家族に対する心理支援とその意義，福尾惠介編『在宅がん患者の栄養サポートに精通した在宅医療福祉従事者の全国的育成システムの開発　症例テキスト』厚生労働科学研究費補助金　がん対策推進総合研究事業, pp. 29-39.

39. 佐藤眞一 (2018) 老年心理学研究の新展開，松田　修編著『最新老年心理学―老年精神医学に求められる心理学とは―』ワールドプランニング，pp. 1-13.

40. 佐藤眞一 (2018) 認知症に正しく対処するための 10 のケーススタディ，洋泉社 MOOK『認知症と笑顔で暮らす本』洋泉社, pp. 28-42.

41. 佐藤眞一 (2019) 高齢者のこころを理解して社会参加のアプローチを，長寿科学振興財団編『生き生きとした心豊かな長寿社会の構築をめざして』，公益財団法人長寿科学振興財団 pp. 61-68.

42. 中里和弘・舞鶴史絵・鈴木真智子・佐藤眞一 (2019) 在宅療養がん患者と家族に対する心理支援とその意義，福尾惠介編『がん患者の栄養管理のポイント―基本知識と症例から学ぶ―』武庫川女子大学出版部, pp. 65-92.

43. 大庭輝・佐藤眞一 (2021) 認知症，金沢吉展編著『公認心理師ベーシック講座　健康・医療心理学』講談社，pp. 198-211.
44. 佐藤眞一 (2021) 認知症ケアにおいて大切なこと―老年心理学からのアプローチ―, 岩原昭彦・松井三枝・平井啓編 (2021) 『認知症に心理学ができること』誠信書房，pp. 95-110.
45. 大庭輝・佐藤眞一 (2021) 高齢者福祉領域の心理学的支援，日本福祉心理学会監修『福祉心理学』明石書店, pp. 221-236.

**事典・辞典等の項目**

1. 佐藤眞一 (1993) 老人観，京極高宣・小田兼三編集委員代表『現代福祉学レキシコン』雄山閣，p.334.
2. 佐藤眞一 (1996) 異常行動・他 18 項目，浜口晴彦編『現代エイジング辞典』早稲田大学出版部.
3. 佐藤眞一 (2001) 老人の若者観／老人の家族観，國分康孝監修『現代カウンセリング事典』金子書房，p.376.
4. 佐藤眞一 (2008) 介護カウンセリング, 國分康孝監修『カウンセリング心理学事典』誠信書房，pp.345-347.
5. 佐藤眞一 (2016) 条件付け・他 11 項目，一般社団法人認知症ケア学会認知症ケア用語辞典編纂員会編『認知症ケア用語辞典』ワールドプランニング.（総 410 頁）

**翻訳**

1. Miller, E. and Morris, R. 著 佐藤眞一訳 (2001) 『痴呆の心理学入門』　中央法規出版.
2. Stern, L. & Fogler, J.著 三浦文夫監訳 (1992) 『ボケないための記憶術：中高年のための記憶力向上の手引』，東京都老人総合研究所心理学部門訳 中央法規出版.
3. Holland, J. & Rowland, J. 編 河野博臣・濃沼信夫監訳 (1993) 内的世界の役割：コーピング，『サイコオンコロジー：がん患者のための総合医療　第 1 巻』メディサイエンス社 pp. 41-53.
4. Kimmel, D.C.著 加藤義明監訳 (1994) 死と死別，『高齢化時代の心理学』　ブレーン出版. pp. 588-658.
5. Kimmel, D.C.著 加藤義明監訳 (1995) 死と死別，『To Be Adult, To Be Old－高齢化の心理学』ブレーン出版 pp. 328-398.
6. Pynoos, J. & Regnier, V.著 佐藤眞一訳 (1998) 虚弱な高齢者のための住環境の改善：理論と応

用の架け橋，Birren, J. E., Lubben, J. E., Rowe, J. C., & Deutchman, D. E.編 三谷嘉明・他訳『虚弱な高齢者のＱＯＬ：その概念と測定』 医歯薬出版 pp. 111-149.

7. Kastenbaum, R. 著 佐藤眞一訳 (2002) もし「死のない世界」があったなら，Kastenbaum, R. 著 井上勝也監訳『死ぬ瞬間の心理』 西村書店 pp. 1-19.
8. Kastenbaum, R. 著 佐藤眞一訳 (2002) 「死の本能」はあるか，Kastenbaum, R.著 井上勝也監訳 『死ぬ瞬間の心理』 西村書店 pp. 276-336.
9. Scheidt, R. J. & Windley, P. G. 著 佐藤眞一訳 (2008) 環境老年学 : ロートン以降の展開，Birren, J. E. & Schaie, K. W. 編 藤田綾子・山本浩市監訳 『エイジング心理学ハンドブック』 北大路書房 pp. 75-92.

**DVD**

1. 佐藤眞一指導 (2013) ⑨高齢期の認知・注意・記憶の発達と支援，田島信元監修『現代心理学発達と支援II①～⑩』サン・エデュケーショナル.

**学術論文**

1. 谷口幸一・大塚俊男・丸山晋・佐藤眞一・松本真作 (1982) 高年者のパーソナリティに及ぼすライフ・イベントの影響，老年社会科学, 4, 111-128.
2. 大塚俊男・谷口幸一・下仲順子・中里克治・丸山晋・佐藤眞一・松本真作 (1982) 高年者の人格特徴と成熟度に関する研究，精神衛生研究, 29, 99-112.
3. Sato, S. (1983) An investigation of anxiety-provoking situations among the aged. *Journal of Child Development*, 19, 5-13.
4. 谷口幸一・大塚俊男・丸山晋・佐藤眞一・松本真作 (1983) 高年期のパーソナリティの研究－ライフ・イベントの評価－，愛国学園短期大学紀要, 3, 23-32.
5. 谷口幸一・大塚俊男・佐藤眞一・丸山晋・松本真作 (1984) 高齢者の心身の自覚的健康観に関する研究，老年社会科学, 6, 152-166.
6. 井上勝也・佐藤眞一 (1985) 老人ホームのイメージに関する心理学的研究，老人福祉, 70, 45-53.
7. 古谷野亘・井上勝也・岡本多喜子・佐藤眞一・竹野下訓子 (1985) 都市壮年における老後の生活像と準備行動（１）－老後の生活像－，老年社会科学, 7, 97-108.
8. 佐藤眞一・井上勝也・長田久雄・野口由紀子 (1985) Semantic Differential 法による老人ホームのイメージの測定（１），老年社会科学, 7, 137-154.

9. 丸山晋・大塚俊男・北村俊則・斎藤和子・佐藤眞一 (1985) 保健所における老人精神衛生相談ケースの分析，老年社会科学, 7, 207-215.
10. 大塚俊男・丸山晋・北村俊則・下仲順子・中里克治・谷口幸一・佐藤眞一・池田央 (1985) 痴呆スクリーニング・テストの開発に関する研究，精神衛生研究, 32, 39-48.
11. 中里克治・下仲順子・谷口幸一・佐藤眞一・池田央・丸山晋・北村俊則・大塚俊男 (1986) 老年期における痴呆の評価法，臨床精神医学, 15, 1403-1409.
12. 古谷野亘・井上勝也・岡本多喜子・佐藤眞一・竹野下訓子 (1986) 都市壮年における老後の生活像と準備行動（２）－準備行動－，老年社会科学, 8, 77-87.
13. 佐藤眞一・井上勝也・野口由紀子・長田久雄・保坂久美子 (1986) Semantic Differential 法による老人ホームのイメージの測定（２），老年社会科学, 8, 117-133.
14. 野口由紀子・井上勝也・長田久雄・佐藤眞一 (1986) 呼び掛けに関する心理学的研究，老年社会科学, 8, 134-147.
15. 土居健郎・丸山普・高橋徹・吉松和哉・広瀬徹也・小倉清・鈴木純一・中野幹三・大平　健・佐藤眞一 (1986) 家族などの支持システムを包括した初期医療のあり方に関する研究, 精神衛生研究, 33, 205-232.
16. 大塚俊男・下仲順子・北村俊則・中里克治・丸山晋・谷口幸一・佐藤眞一・池田央 (1987) 痴呆スクリーニング・テストの開発，精神医学, 29, 395-402.
17. Otsuka, T., Shimonaka, Y., Maruyama, S., Nakazato, K., Kitamura, T., Yaguchi, K., Sato, S., & Ikeda, H. (1988) A new screening test for dementia. The Japanese Journal of Psychiatry and Neurology, 42, 223-229.
18. 佐藤眞一・井上勝也・長田由紀子・矢冨直美・岡本多喜子・巻田ふき・林洋一 (1988) 中高年者の「仕事」「家庭」「余暇・社会活動」の満足度，老年社会科学, 10, 120－137.
19. 長田由紀子･佐藤眞一･井上勝也 (1988) 中高年用家庭満足度尺度の作成過程－構成内容の分析－，家族心理学研究, 2, 109－118.
20. 佐藤眞一・井上勝也 (1989) 知的機能検査の使い方とその評価：ＷＡＩＳ，老年期痴呆, 3(3), 65－71.
21. 佐藤眞一・長田由紀子・矢冨直美・岡本多喜子・巻田ふき・林洋一・井上勝也 (1989) 中・高年者における生活の志向性と満足度，老年社会科学, 11, 116－133.
22. 川崎友嗣・佐藤眞一・長田由紀子・井上勝也 (1989)「スープのさめない距離」の評価にみられる世代差の検討，老年社会科学, 11, 218－234.
23. 佐藤眞一・川崎友嗣 (1991) 高齢者教室における自己開示，社会老年学, 33, 38－47.

24. 佐藤眞一・東清和 (1991) 「生きがい」についての欧米の研究動向，月刊シニアプラン, 1(3), 20－30.

25. 佐藤眞一・下仲順子 (1991) 老人をかかえる家族，エキスパートナース, 7, 24－25.

26. 佐藤眞一・下仲順子・中里克治・河合千恵子・長田由紀子・成田健一・菊池安子 (1992) 文章と絵画による記憶テストの作成：高齢者を対象とした記憶トレーニングの効果測定尺度の開発，老年社会科学, 14, 52－62.

27. Gondo, Y., Shimonaka, Y., Nakazato, K., Kawaai, C., Sato, S., Ishihara, O., & Imuta, H. (1993) The effect of personality on life events in later life. In Beregi, E., Gergely, I. A., & Rajczi, K. eds., *Recent Advances in Aging Science*, Bologna: Monduzzi Editore, pp.1517-1521.

28. Shimonaka, Y., Nakazato, K., Kawaai, C., Sato, S., Ishihara, O., Gondo, Y., & Imuta, H. (1993) Effect of health on stressful life events in later life. In Beregi, E., Gergely, I. A., & Rajczi,K. eds., *Recent Advances in Aging Science* , Bologna: Monduzzi Editore, pp.1523-1527.

29. Ishihara, O., Shimonaka, Y., Nakazato, K., Kawaai, C., Sato, S., Gondo, Y., & Imuta, H. (1993) Subjective well-being and the role of life events in later life.In Beregi, E., Gergely, I. A., & Rajczi, K. eds., *Recent Advances in Aging Science* , Bologna: Monduzzi Editore, pp.1529-1534.

30. Kawaai, C., Shimonaka, Y., Nakazato, K., Sato, S., Ishihara, O., Gondo, Y., & Imuta, H. (1993) The buffering effect of social support on stressful life events among Japanese middle-aged and others. In Beregi, E., Gergely, I. A., & Rajczi, K. eds., *Recent Advances in Aging Science* , Bologna: Monduzzi Editore, pp.1775-1779.

31. Sato, S., Shimonaka, Y., Nakazato, K., Kawaai, C., Ishihara, O., Gondo, Y., & Imuta, H. (1993) An investigation of factors affecting satisfaction of life style among the middle age and the elderly in Japan. In Beregi, E., Gergely, I. A., & Rajczi, K. eds., *Recent Advances in Aging Science* , Bologna: Monduzzi Editore, pp.1781-1785.

32. Nakazato, K., Shimonaka, Y., Kawaai, C., Sato, S., Ishihara, O., Gondo, Y., & Imuta, H. (1993) Retirement-related life events and adaptation among middle-aged and elderly Japanese. In Beregi,E., Gergely,I.A. and Rajczi,K. eds., *Recent Advances in Aging Science* , Bologna: Monduzzi Editore, pp.2039-2043.

33. 佐藤眞一 (1994) 高齢者のいる家族の世代間関係：世代境界尺度の構造と関連要因．高齢者のケアと行動科学, 1, 47-57.

34. 大川一郎・佐藤眞一 (1994) 高齢者の心理と生活，国際交通安全学会誌, 20, 163-171.

35. 佐藤眞一 (1995) 老年期のパーソナリティとポジティヴな心理機能，高齢者のケアと行動科学, 2, 3-15.

36. 下仲順子・中里克治・河合千恵子・佐藤眞一・石原治・権藤恭之 (1995) 中高年期におけるライフイベントとその影響に関する心理学的研究，老年社会科学, 17, 40-56.

37. 成田健一・下仲順子・中里克治・河合千恵子・佐藤眞一・長田由紀子 (1995) 特性的自己効力感尺度の検討－生涯発達的利用の可能性を探る－，教育心理学研究, 43, 306-314.

38. 中里克治・下仲順子・河合千恵子・佐藤眞一 (1996) 老年期の心理的依存性が適応に及ぼす影響, 老年社会科学, 17, 148-157.

39. 薗牟田洋美・下仲順子・中里克治・河合千恵子・佐藤眞一・石原治・権藤恭之 (1996) 中高年期におけるライフイベントの主観的評価・予測性と心理的適応－家族関係と職業ライフイベントを中心にして－，老年社会科学, 18, 63-73.

40. 下仲順子・中里克治・河合千恵子・佐藤眞一・石原治・権藤恭之 (1996) 中高年期におけるストレスフル・ライフイベントと精神的健康，老年精神医学雑誌, 7, 1221-1230.

41. 山田万里・岩坪奇子・大川一郎・佐藤眞一・高橋多喜子・井上勝也 (1997) 高齢者のなじみの歌について－音楽療法の基礎的資料として－，高齢者のケアと行動科学, 4, 112-121.

42. 長田由紀子・下仲順子・中里克治・河合千恵子・佐藤眞一・成田健一・菊池安子 (1997) 高齢者の記憶能力の自己評価法の開発，老年社会科学, 18, 123-133.

43. 佐藤眞一・下仲順子・中里克治・河合千恵子 (1997) 年齢アイデンティティのコホート差，性差，およびその規定要因：生涯発達の視点から，発達心理学研究, 8, 88-97.

44. Shimonaka, Y., Nakazato, K., Kawaai, C., Sato, S., Ishihara, O., & Gondo, Y. (1997) The effect of life events on psychological well-being among Japanese middle-aged and the elderly. *Facts Research and Intervention in Geriatrics 1997* "Longitudinal Interdisciplinary Study on Aging", pp. 137-146, Paris: Serdi Publisher.

45. Sato, S., Shimonaka, Y., Nakazato, K., Kawaai, C., Ishihara, O., & Gondo, Y. (1997) Longitudinal changes of life-style in later life and their relationship to life events. *Facts Research and Intervention in Geriatrics 1997* "Longitudinal Interdisciplinary Study on Aging", pp. 147-154, Paris: Serdi Publisher.

46. Nakazato, K., Shimonaka, Y., Kawaai, C., Sato, S., Ishihara, O., & Gondo, Y. (1997) Adaptation process to retirement from job and other related life events among middle-aged and elderly Japanese. *Facts Research and Intervention in Geriatrics 1997* "Longitudinal Interdisciplinary Study on Aging", pp. 155-162, Paris: Serdi Publisher.

47. Gondo, Y., Shimonaka, Y., Nakazato, K., Kawaai, C., Sato, S., & Ishihara, O. (1997) The relationship between cognitive failure and stress vulnerability from middle to old age. *Facts Research and Intervention in Geriatrics 1997* “Longitudinal Interdisciplinary Study on Aging”, pp. 163-171, Paris: Serdi Publisher.
48. Shimonaka, Y., Nakazato, K., Kawaai, C., & Sato, S. (1997) Androgyny and successful adaptation across the life span among Japanese adults. *Journal of Genetic Psychology*, 158, 389-400. DOI: 10.1080/00221329709596677
49. 佐藤眞一 (1998) 老親を介護するこころ，発達, 73, 44-52.
50. 佐藤眞一 (1998) 中高年期における生きがい概念再考－被雇用者および定年退職経験者への調査データから，明治学院大学心理学紀要, 8, 25-32.
51. Watanabe, M., Kawasaki, T., & Sato, S. (1998) Vocational behavior of the Japanese in late adulthood: Focusing on those in the retirement process. *Journal of Vocational Behavior*, 52, 300-311.
52. 佐藤眞一・東清和 (1998) 中高年被雇用者および定年退職者の行動特徴と生きがい，産業・組織心理学研究, 11, 95-106.
53. 佐藤眞一・小嶋明子・辰巳有紀子・小林あきの・矢吹真理 (1999) 小学校４～６年生における物語主人公に対する共感的反応，明治学院大学心理学紀要, 9, 27-32.
54. 佐藤眞一 (1999) 高齢痴呆患者における状況の認知能力－情景画を用いた認知特性の検討－, 埼玉医科大学雑誌, 26, 145-152.
55. 佐藤眞一 (1999)「生きがい」－その評価と測定のポイント－，生活教育, 43(6), 28-31.
56. 福田恵・伊藤信子・佐藤眞一 (2000) 高齢者における他者感情の理解，高齢者のケアと行動科学, 7(1), 44-54.
57. 佐藤眞一 (2000) 情景画課題を用いた老年期痴呆患者における状況認知の特徴およびその精神症状・異常行動との関連，明治学院大学心理学紀要, 10, 17-28.
58. 佐藤眞一 (2000) 痴呆性高齢者の行動から何を見出すことができるのか－異常行動から意思を読む－，痴呆介護, 1(3), 22-26.
59. 佐藤眞一 (2001) 高齢者の心理と介護における人間関係，理学療法研究・長野, 29, 15-19 .
60. 佐藤眞一 (2001) 企業従業者の定年退職後の生きがい－集団面接による質的分析－, 明治学院大学心理学紀要, 11, 33-46.
61. 川口裕見・佐藤眞一 (2002) 痴呆性高齢者の認知能力の他者評価に関する研究，高齢者のケアと行動科学, 8(2), 37-45.
62. 伊藤信子・中島恵・佐藤眞一 (2002) 高齢者の他者感情理解における痴呆および思考の硬さの影響,

高齢者のケアと行動科学, 8(2), 46-57.

63. 佐藤眞一 (2002) 老親による成人子家族への関与－行動予測に対する欲求, 態度および結果予測の効果－，明治学院大学心理学紀要, 12, 39-46.

64. 佐藤眞一 (2003) 心理学的超高齢者研究の視点－P. B. Baltes の第 4 世代論と E. H. Erikson の第 9 段階の検討－，明治学院大学心理学紀要, 13, 41-48.

65. 佐藤眞一 (2004) 中高年期における対人特性と行動特性，明治学院大学心理学紀要, 14, 37-46.

66. 佐藤眞一 (2004) ケアカンファレンスの意義とあり方－問題解決のためにー, ふれあいケア, 10(4), 6-8.

67. 佐藤眞一 (2004) 介護における人間関係－高齢者の心理特性と生活援助－，高齢者けあ, 8(2), 4-8.

68. 佐藤眞一 (2005) 超高齢者研究の心理学的視点，第 9 回静岡健康・長寿学術フォーラム記録集, 142-144.

69. 佐藤眞一 (2005) パーソナルケア（施設版）－問題解決型高齢者ケアの方法－，明治学院大学心理学部付属研究所紀要, 3, 15-25.

70. 佐藤眞一 (2005) 中高年期における生活満足度の多面的検討 －1991，1996，2001 年のデータから－，明治学院大学心理学紀要, 15, 49-54.

71. 佐藤眞一 (2005) 成人期・老年期の発達研究の動向，教育心理学年報, 44, 57-66.

72. 島内晶・佐藤眞一 (2005) 百寿者をめぐるソーシャル・サポートの三者モデル，高齢者のケアと行動科学, 10(2), 48-52.

73. 佐藤眞一 (2005) 老年期の家族と介護，老年精神医学雑誌, 16, 1409-1418.

74. 野内類・高野裕治・小嶋明子・佐藤眞一 (2006) 現代大学生の食行動に関する研究―自伝的記憶と１週間の食行動からの検討―，明治学院大学心理学部付属研究所紀要, 4, 3-18.

75. 佐藤眞一 (2006) 団塊世代の退職と生きがい，日本労働研究雑誌, 48(5), 83-93.

76. 野内類・高野裕治・高野春香・小嶋明子・佐藤眞一 (2007) 大学生の食事スタイルと食事スクリプトの関係，明治学院大学心理学部付属研究所紀要, 5, 3-13.

77. 野内類・高野裕治・高野春香・小嶋明子・佐藤眞一 (2008) 大学生の居住形態と食事行動の関係，明治学院大学心理学部付属研究所年報, 1 79-87.

78. 岡本多喜子・佐藤眞一・大川一郎・新井樹夫・森マサ子・高橋佳代・柴崎裕美・福岡綾子 (2008) WHO 高齢者にやさしい街東京調査―バンクーバー・プロトコルによる第一次調査―，高齢者のケアと行動科学, 14(1), 29-38.

79. 大庭輝・野内類・高野裕治・高野春香・小嶋明子・佐藤眞一 (2009) 高齢者施設入居者における食

事の役割―九州地方の高齢者施設を例として―, 明治学院大学心理学部付属研究所年報, 2, 49-63.

80. 高野裕治・野内類・高野春香・小嶋明子・佐藤眞一 (2009) 大学生の食生活スタイル―精神的健康及び食行動異常との関連―, 心理学研究, 80, 321-329.

81. 島内晶・佐藤眞一 (2009) 高齢者の虚偽記憶の特徴とその低減のための諸条件に関する展望, 心理学評論, 52, 311-321.

82. 佐藤眞一 (2010) 応用老年行動学の意義と目的, 応用老年学, 4(1), 4-12.

83. 佐藤眞一 (2010) 老年行動科学と高齢者ケアの実践, コミュニティケア, 12(14), 5-9.

84. 島内晶・佐藤眞一・権藤恭之・増井幸恵・稲垣宏樹・広瀬信義 (2010) 百寿者介護へのソーシャル・サポート―三者モデルによる考察―, 高齢者のケアと行動科学, 15, 34-47.

85. 佐藤眞一・島内晶 (2011) 高齢者の自動車運転の背景としての心理特性, IATSS Review（国際交通安全学会誌）35, 203-212.

86. 佐藤眞一・島内晶 (2011) ADL 障害の評価とリハビリテーション, 老年精神医学雑誌, 22, 302-311.

87. 佐藤眞一 (2011) 行動科学と高齢者ケア―行動科学の意義と役割―, 高齢者のケアと行動科学, 16, 4-15.

88. 大川一郎・田中真理・佃志津子・大島由之・Lin Shuzhen・成本迅・本田憲康・河田圭司・田邊真弓・新見令子・鈴木信恵・宮裕昭・山本哲也・佐藤眞一 (2011) レビー小体型認知症高齢者の介護抵抗への対応に関する実証的研究, 高齢者のケアと行動科学, 16, 61-81.

89. 佐藤眞一・小澤直人・島内晶 (2011) 金銭や家族に対する心配から，不穏不眠に陥ってしまう利用者へのアプローチ―『パーソナルケア』に基づく事例の検討：ケアプランの策定，実践，評価―, 高齢者のケアと行動科学, 16, 82-94.

90. Nakano, M., Sato, S., & Nakahara, J. (2012) Emotional experiences of the community-dwelling with mild cognitive impairment and their families. *Neuropsychological Trends*, 12, 117-124.

91. 豊島彩・佐藤眞一 (2013) 孤独感を媒介としたソーシャルサポートの授受と中高年者の精神的健康の関係―UCLA 孤独感尺度第 3 版を用いて―, 老年社会科学, 35, 29-38.

92. 田中真理・大川一郎・滝澤秀児・花澤美枝子・安斎龍二・村上健太郎・鶴岡美由紀・山田樹・碧井猛・山下剛司・乾真由美・玉井智・榎本尚子・宮裕昭・Lin Shuzhen・佐藤眞一 (2013) 認知症高齢者の痛みの訴え，食事拒否，義歯外し拒否への対応に関する実証的検討―他職種連携・協働による仮説検証型事例検討の試み―, 高齢者のケアと行動科学, 18, 2-31.

93. 佐藤眞一 (2013) 老年心理学からのアプローチによる認知症研究の基礎と応用，発達心理学研究, 24, 495-503.

94. 大庭輝・野内類・高野裕治・高野春香・島内晶・豊島彩・佐藤眞一 (2014) 高齢期における食生活スタイルとソーシャルサポートの関連, 老年社会科学, 35, 429-437.

95. 上野大介・権藤恭之・佐藤眞一・増本康平 (2014) 顕在記憶指標・潜在記憶指標を用いたポジティヴ優位性に関する研究, 認知心理学研究, 11, 71-80.

96. 中川威・山本浩市・権藤恭之・佐藤眞一 (2014) 老年心理学の先駆者　橘覚勝の足跡, 生老病死の行動科学, 17/18, 9-14.

97. 豊島彩・佐藤眞一 (2014) 高齢者のソーシャルサポートの提供に対する評価の質的検討, 生老病死の行動科学, 17/18, 65-78.

98. 大庭輝・高宏・佐藤眞一 (2014) 認知症の利用者に対する介護職員の感情的負担感に及ぼす有能感の影響, 認知症ケア学会誌, 13, 482-489.

99. 佐藤眞一 (2015) 老年心理学の最前線, 老年精神医学雑誌, 26(1), 77-83.

100. 豊島彩・佐藤眞一 (2015) 孤独感統制下における独自志向性と感情的ウェルビーイングの関連性の検討, 心理学研究, 86, 142-149.

101. 大庭輝・数井裕光・佐藤眞一 (2015) 介護職員の認知症に関する知識の普及度とその関連要因, 高齢者のケアと行動科学, 20, 135-150.

102. 大庭輝・豊田麻美・佐藤眞一 (2016) 精神的健康と職場環境が介護職員の有能感に及ぼす影響, 生老病死の行動科学, 20, 3-12.

103. Kuwamura, K., Nishio, S., & Sato, S. (2016) Can we talk through a robot as if face-to-face? Long-term fieldwork using teleoperated robot for seniors with Alzheimer's disease. *Frontiers in Psychology*, 7. DOI: org/10.3389/fpsyg.2016.01066

104. 豊島彩・田渕恵・佐藤眞一 (2016) 若者における高齢者虐待の認識度と高齢者への態度との関連―虐待の背景に着目して―, 老年社会科学, 38, 308-318.

105. 久保田彩・佐藤眞一 (2016) 高齢者介護施設職員の看取りケア効力感の測定とその関連要因, 心理学研究, 87, 485-494.

106. 春日彩花・佐藤眞一・高橋正美 (2017) 心理学的知恵研究の展望と発達的検討―「知恵のある」状態の連続性と非連続生―, 生老病死の行動科学, 21, 15-31.

107. Toyoshima, A. & Sato, S. (2017) Examination of the relationship between preference for solitude and emotional well-being after controlling for the effect of loneliness. *Osaka Human Sciences*, 3, 171-183.

108. 大庭輝・佐藤眞一・数井裕光・新田慈子・梨谷竜也・神山晃男 (2017) 日常会話式認知機能評価（Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction; CANDy）の開発と信頼性・妥当性の検討,

老年精神医学雑誌 28, 379-388.

109. Nakazato, K., Shiozaki, M., Hirai, K., Morita, T., Tatara, R., Ichihara, K., Sato, S., Simizu, M., Tuneto, S., Shima, Y., & Miyasita, M. (2018) Verbal communication of families with cancer patients at end of life: A questionnaire survey with bereaved family members. *Psycho-Oncology*, 27, 155-162. DOI:10.1002/pon.4482

110. Toyoshima, A., Martin, P., Sato, S., & Poon, L. (2018) The Relationship between vision impairment and well-being among Centenarians: Findings from the Georgia Centenarian Study. International *Journal of Geriatric Psychiatry*, 33(2), 414-422. DOI: 10.1002/gps.4763.

111. Oba, H., Sato, S., Kazui, H., Nitta, Y., Nashitani, T., & Kamiyama, A. (2018) Conversational assessment of cognitive dysfunction among residents living in long-term care facilities. *International Psychogeriatrics*, 30, 87-94. DOI: 10.1017/S1041610217001740.

112. 吉田甫・髙山緑・高橋雅延・竹内光・土田宣明・佐藤眞一 (2018) 加齢に伴い向上・維持する能力を発掘する, 教育心理学年報, 57, 329-349.

113. 中里和弘・塩崎麻里子・平井啓・森田達也・多田羅竜平・市原香織・佐藤眞一・清水　恵・恒藤暁・志摩泰夫・宮下光令 (2018) ホスピス・緩和ケア病棟における患者と家族間の思いの言語化を支える家族支援─遺族調査による家族支援と「患者と家族との良好な関係性」および「ケアの全般的満足度」との関連性の検討─, *Palliative Care Research,* 13(3): 263-271.

114. Toyoshima, A. & Sato, S. (2018) Examination of the effect of preference for solitude on subjective well-being and developmental change. *Journal of Adult Development*, 42, 236-243. DOI: 10.1007/s10804-018-9307-z.

115. 佐藤眞一・大庭輝 (2019) 日常会話式認知機能評価（Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction; CANDy）の開発と認知症のスクリーニング, 介護予防・健康づくり, 5, 117-120.

116. 春日彩花・佐藤眞一・Masami Takahashi (2019) 知恵は発達するか―成人後期における知恵の機能的側面と構造的側面の検討―, 心理学評論, 61, 384-403.

117. 上野大介・増本康平・佐藤眞一・権藤恭之 (2019) 情動記憶検索に保持期間が及ぼす影響―高齢者を対象に顕在記憶指標と潜在記憶指標を用いた検討―, 生老病死の行動科学, 23, 37-44.

118. 佐藤眞一 (2019) 認知症ケアで大切なこと―介護場面における「ケア対コントロール」と日常会話, 学術の動向, 24(5), 37-43.

119. Ueno, D., Masumoto, K., Sato, S., & Yasuyuki Gondo (2019) Age-related differences in the International Affective Picture System (IAPS) valence and arousal ratings among Japanese individuals. *Experimental*

*Aging Research*, 1-12. DOI: 10.1080/0361073X.2019.1627493

120. 春日彩花・佐藤眞一・Masami Takahashi (2020) 日本人における「知恵」の概念―中高年世代を対象とした面接調査―, 老年社会科学, 41, 379-389.

121. 島内晶・佐藤眞一 (2020) 高齢者の記憶錯誤 : 虚記憶およびメタ記憶からの分析と精神的健康の関連, 体力科学, 69(1), 193-201. DOI: 10.7600/jspfsm.69.193

122. Matsui, T., Hirai, K., Gondo, Y., & Sato, S. (2020) Understanding help-seeking behaviour in relation to psychosocial support services among Japanese cancer patients. *Japanese Journal of Clinical Oncology*, 50(10), 1175-1181. DOI: 10.1093/jjco/hyaa086

123. Matsui, T., Hirai, K., Gondo, Y., & Sato, S. (2020) Examination of factors contributing to help-seeking behavior in accessing psychosocial support services among Japanese cancer patients: An application of the segmentation approach. *Psycho-Oncology*, 29(11), 1905-1916. DOI: 10.1002/pon.5523

124. Kasuga, A., Sato, S., & Takahashi, M. (2021) Japanese people's conceptualization of wisdom: Qualitative analysis of interviews with middle-aged and older adults. *Osaka Human Sciences*, 7, 93-109. DOI: 10.18910/78942

125. 大庭輝・藤田雄・佐藤眞一・成本迅 (2021) 認知症の施設介護のためのストレスマネジメントプログラムの開発と効果検証, 老年臨床心理学研究, 2, 8-18.

126. 豊島彩・佐藤眞一 (2021) 日本版 UCLA 孤独感尺度（第 3 版）短縮版の開発―多世代での使用に向けて―, 老年臨床心理学研究, 2, 19-26.

127. 久保田彩・佐藤眞一 (2021) 高齢者施設で看取る介護職員の悲嘆―死に対する準備性と看取りケア効力感に着目して―, 老年社会科学, 43, 15-25.

128. 佐藤眞一 (2021) 超高齢社会を生きる―孤立、孤独を超えて―, こころの科学, 218, 23-28.

**報告書・年報等**

1. 井上勝也・佐藤眞一 (1992) 『福岡県高齢者実態調査』報告書, 福岡県民生部老人福祉課編集発行.

2. 佐藤眞一・井上勝也 (1992) 『大川市高齢者実態・市民意識調査』報告書, 福岡県大川市民生部.

3. 佐藤眞一監修 (1994) 『老人福祉センター利用実態調査』報告書, 東京都社会福祉総合センター・東京都老人福祉センター連絡会研究会.

4. 佐藤眞一 (1997) 『高齢者の社会性における二側面－Sociality と Sociability の検

討』, 平成 7，8 年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究（C）(2)）.
5. 佐藤眞一監修 (1997) 『在宅福祉研究会報告書』埼玉県吹上町社会福祉協議会.
6. 佐藤眞一(2000) 『シニアのためのマルチメディア・コンテンツ体系の整備－地域イントラネットによる生活情報システムの構築に向けて－』電気通信普及財団研究調査報告書，14，pp.174-181.
7. 佐藤眞一(2009) 『食生活スタイルの生涯発達心理学』(2009) 2005 年度～2009 年度明治学院大学心理学部付属研究所プロジェクト研究　研究成果報告書.
8. 佐藤眞一(2011) 『自立高齢者の健康維持・増進と社会参加・社会貢献を包括するプログラム指針の検討』,（独）科学技術振興機構・社会技術研究開発センター領域開発プロジェクト「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」プロジェクト企画調査平成 22 年度報告書.
9. 佐藤眞一(2011) 『記憶の歪曲と変容における加齢及び認知障害の影響』，2008～2010 年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書（基盤研究（C））.
10. 佐藤眞一(2014) 『高齢者介護に関する調査報告書』，公益社団法人日本介護福祉士会調査報告書（総 15 頁）.
11. 佐藤眞一(2015) 認知症ケアにおけるアンドロイドの認知・行動学的意義と中高年ボランティアによるコミュニケーションの試み，（公財）三菱財団「2014　三菱財団研究・事業報告書，pp. 140-141. (CD-ROM 160, pp. 1-13)
12. 佐藤眞一(2016) 認知症ケアにおけるアンドロイドの認知・行動学的意義と中高年ボランティアによるコミュニケーションの試み②，（公財）三菱財団「2015　三菱財団研究・事業報告書，pp. 99-100. (CD-ROM 115, pp. 1-21)
13. 佐藤眞一(2017) 日常会話形式による認知症スクリーニング法の開発と医療介護連携，第 24 回ニッセイ財団高齢社会ワークショップ研究助成成果報告，第 30 回ニッセイ財団シンポジウム「高齢者と共に生きる」―認知症の人とその家族が安心して生活できるまちづくり―，pp. 96-99.
14. 佐藤眞一(2019) 地域住民の死生観と健康自律を支える超高齢社会創生のための文理融合プロジェクト，大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）アニュアルレポート 2018, pp. 18-19.
15. 佐藤眞一(2020) 一人ひとりの死生観と健康自律を支える超高齢社会の創生，大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）アニュアルレポート 2019, pp.

18-19.
16. 佐藤眞一(2021) 一人ひとりの死生観と健康自律を支える超高齢社会の創生，大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）アニュアルレポート 2020，pp. 18-19.

**その他**

1. 佐藤眞一 (1989～1990) いきいきシルバーライフ，れいろう，31(8)～32(7)，広池学園出版部.
2. 佐藤眞一・下仲順子(1993) 脳のフィールド・トレーニング　あなたの記憶力に迫る，ＮＨＫ取材班編，『驚異の小宇宙　人体II　脳と心　第３巻　人生をつむぐ臓器　記憶』，ＮＨＫ出版，pp. 118-121.
3. 佐藤眞一 (1994) 高齢社会を考える（上・下），モラロジー研究所所報，39(8)-(9)，財団法人モラロジー研究所.
4. 佐藤眞一 (2000) シグナルーお年寄りの声なき声にきづいていますか（座談会），ふれあいケア，6(4)，9-26，全国社会福祉協議会.
5. 佐藤眞一 (2000～2001連載，全12回) みんなで作ろうケアプラン，ふれあいケア，6(5)～7(4)，全国社会福祉協議会.
6. 佐藤眞一 (2001) 施設における効果的な協働とは？（座談会），ふれあいケア，7(8)，10-22，全国社会福祉協議会.
7. 佐藤眞一 (2002) 定年後，「居場所不安」がなぜ起こるのか，PHP ほんとうの時代，7 月号，PP. 50-51，PHP 研究所.
8. 佐藤眞一 (2002) 痴呆心理学の可能性，痴呆介護，3(2)，104-106.
9. 佐藤眞一 (2002)「ケアプラン」のここをどうする？（座談会），ふれあいケア，8(7)，6-16，全国社会福祉協議会.
10. 佐藤眞一 (2003，連載全 3 回) ロストック便り(1)～(3)，日本老年行動科学会ニューズレター.
11. 佐藤眞一 (2004) 介護で親密な関係を保つには，清流，3 月号，pp. 22-23，清流出版.
12. 佐藤眞一 (2005) 発表の方法とポイント，おはよう２１21，2 月号，16(2)，18-27.
13. 佐藤眞一 (2005～2009) 記憶ってなんだろう(2008 年 1 月より「認知って何だろう」

に改題）りんくる，1(1)～5(3)

1. 記憶の本質は忘却にあり. 1(1), 14-15 (2005).

2. 記憶力？ 1(2), 40-41 (2005).

3. 脳の発達と記憶. 1(3), 40-41 (2005).

4. 脳科学が進歩しても.... 1(4), 52-53 (2005).

5. 感覚は記憶の始まり. 1(5), 54-55 (2005).

6. 認知症の人の実行不能症候群. 2(1), 54-55 (2006).

7. 認知症の人の絶望的な不安感. 2(2), 54-55 (2006).

8. 視覚と記憶. 2(3), 54-55 (2006).

9. 遠い記憶への囚われ. 2(4), 54-55 (2006).

10.記憶の低下はボケの始まり？ 2(5), 56-57 (2006).

11.自伝的記憶と反事実的思考. 2(6), 50-51 (2006).

12.事実の記憶と想像の記憶.3(1), 50-51 (2007).

13.身体と記憶. 3(2), 52-53 (2007).

14.顔の記憶. 3(3), 46-47 (2007).

15.場所の記憶. 3(4), 46-47 (2007).

16.未来の記憶. 3(5), 52-53 (2007).

17.頭の中の小人. 3(6), 56-57 (2007).

18.「認知症」という名の混乱. 4(1), 54-55 (2008).

19.人間らしさと認知症. 4(2), 54-55 (2008).

20.認知は多面的で深い. 4(3), 54-55 (2008).

21.社会生活と認知症. 4(4), 54-55 (2008).

22.歳をとると注意力はどうなるか. 4(5), 56-57 (2008).

23.認知症と失語症. 4(6), 56-57 (2008).

24.認知症の人の言葉と会話. 5(1), 56-57 (2008).

25.海馬の働き. 5(2), 56-57 (2009).

26.認知症の再定義―認知症の人のよりよい生活のために―. 5(3), 56-57 (2009).

14. 佐藤眞一 (2005，連載全 5 回) 認知症患者と介護する家族を支える，家族ケア，3(5)～4(3).

1. 認知症患者を介護する家族　－私の家族の場合－. 3(5), 10-13.

2. 介護に潜む危険性. 3(7), 10-13.

3. 忘れ得ぬケース. 3(9), 16-18.

4. 家族と介護. 3(11), 10-13.

5. 成熟した依存. 4(3), 10-13.

15. 佐藤眞一 (2005) 認知症高齢者の異常行動の意味，月刊介護ジャーナル，178 号 13.

16. 佐藤眞一 (2005) 男女差把握した”やる気創り”，月刊介護ジャーナル 178 号臨時増刊号「介護予防ジャーナル」，pp. 1-2.

17. 佐藤眞一 (2005) 問題解決型の「パーソナルケア」とは？－高齢者ケアには「こころ」への配慮が必要－，月刊介護ジャーナル 180 号，13.

18. 佐藤眞一 (2005) 日本老年行動科学会の紹介（ハングル訳付），Korean Journal of Research in Gerontology, 14, 145-153.

19. 佐藤眞一 (2006) 知恵と英知の基礎としての結晶知能, 本の窓 7 月号, 29(6), 82-83, 小学館.

20. 佐藤眞一 (2006) 歳をとっても脳力はどんどん伸びる，自然治癒力を高める連続講座 11「ビジネス脳・幸せ脳・健康脳」，pp.47-60，ほんの木.

21. 佐藤眞一 (2007)「大人の知能」を磨いて脳力を伸ばす, 暮らしと健康 9 月号, 62(9), 14-16，保健同人社.

22. 佐藤眞一 (2007) 行動制限が及ぼす心理的影響，おはよう 21，12 月号，18-21，中央法規出版.

23. 佐藤眞一 (2008) マックス・プランク人口学研究所（ドイツ），明治学院大学心理学部付属研究所年報，6，107-115.

24. 佐藤眞一 (2009，連載全 24 回) 老いはチカラなり―シニア世代のための「結晶知能」革命―，中央法規出版ホームページ「けあサポ」(http://www.caresapo.jp/)

25. 佐藤眞一 (2009) たずさわることが利用者のココロにおよぼす影響, おはよう 21, 8 月号，20(9)，26-28，中央法規出版.

26. 佐藤眞一 (2009，連載全 3 回) 心理学から老いを知る，地域リハビリテーション, 4(7)-4(9)，三輪書店.

1. 生涯発達とエイジング, 4(7), 581-584.

2. 認知のエイジングとその対策, 4(8), 671-674.

3. ポジティブ・エイジング, 4(9), 766-769.

27. 佐藤眞一 (2010) 【巻頭言】老いと死にまつわる 2 つの思案，生老病死の行動科学，14, 1-2.

28. 佐藤眞一 (2010) 運転を止めない高齢者の心理特性とその解決法，自動車学校，46(10), 23-26, （社）全日本指定自動車教習所協会連合会.

29. 佐藤眞一 (2011) 【巻頭言】物忘れ外来を受診する高齢者とその家族について考えていること，生老病死の行動科学, 15, 1-2.

30. 佐藤眞一 (2011) 【自著を語る】老いとこころのケア—老年行動科学入門—，心理学ワールド, 53, 45.

31. 本多-ハワード素子・佐藤眞一 (2011～2012, 連載全 12 回) 過組織症候群，月刊社会保険, 62(5)-63(4), （社）全国社会保険協会連合会

1. 組織に生きる, 62(5), 22-23.

2. われわれというアイデンティティ, 62(6), 22-23.

3. 組織の一員になっていく, 62(7), 22-23.

4. コミットメントの力, 62(8), 22-23.

5. 組織の力, 62(9), 22-23.

6. リーダーシップ, 62(10), 22-23.

7. これからのリーダーシップ, 62(11), 22-23.

8. 組織的公正, 62(12), 22-23.

9. 集団の意志決定, 63(1), 24-25.

10. 過組織症候群とは何か(1), 63(2), 26-27.

11. 過組織症候群とは何か(2), 63(3), 26-27.

12. 過組織症候群にならないために, 63(4), 24-25.

32. 佐藤眞一 (2011) 認知症高齢者と介護する家族を支える—超高齢社会のいまこそ，求められることとは—，いまここ Tokyo（社団法人日本産業カウンセラー協会東京支部機関誌）, 26, 10-11.

33. 佐藤眞一 (2011) Aging Paradox と老年行動学，Dia News（公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団）, 66, 2.

34. 佐藤眞一 (2012) 非日常の歓喜，おはよう２１（中央法規出版）, 23(2), 40-41.

35. 佐藤眞一 (2012) 【巻頭言】東日本大震災と，津波と，私的経験と．生老病死の行

動科学, 16, 1-5.
36. 佐藤眞一 (2012) アイデンティティの危機と怒り, おはよう２１（中央法規出版）, 23(6), 40-41.
37. 佐藤眞一 (2012) 悲しみに堪えるこころ, おはよう２１（中央法規出版）, 23(9), 40-41.
38. 佐藤眞一 (2012) 認知症の人のポジティブ気分と「心の理論」へのケア, おはよう２１（中央法規出版）, 23(13), 40-41.
39. 佐藤眞一 (2012) 「老い」—老年行動学が解き明かす, 兵庫県高齢者大学, 36(7), 5.
40. 佐藤眞一 (2013) 認知症を理解する—ともに歩むために, 月刊福祉, 96(10), 54-55.
41. 佐藤眞一 (2013) 心理学と認知症, ぽ～れぽ～れ（公益社団法人認知症の人と家族の会）, 398 号, 12.
42. 佐藤眞一 (2013) 生涯発達と加齢, 認知症ケア事例ジャーナル, 6, 348-350.
43. 佐藤眞一 (2014) 【巻頭言】臨床死生学・老年行動学研究室 20 周年. 生老病死の行動科学, 17-18, 1-2.
44. 佐藤眞一 (2014) 認知症の社会的認知機能, ぽ～れぽ～れ（公益社団法人認知症の人と家族の会）, 404 号, 12.
45. 佐藤眞一 (2014) 高齢者の行動の謎, 年金時代, 43(7), 13.
46. 佐藤眞一・祖父江逸郎 (2014) 高齢者のこころを理解して社会参加のアプローチを, Aging & Health, 23(3), 6-11.
47. 佐藤眞一 (2014) 『老いのこころ—加齢と成熟の発達心理学』を上梓して, 書斎の窓, 第 636 号, 77-80.
48. 佐藤眞一 (2015) 【巻頭言】医療・福祉連携のキーパーソン. 生老病死の行動科学, 19, 1-2.
49. 佐藤眞一 (2015) 片づけられないこころの動きを心理学者に聞く, 通販生活・2015 年秋冬号, p.169.
50. 佐藤眞一 (2016) 【巻頭言】タイの高齢化事情. 生老病死の行動科学, 20, 1-2.
51. 佐藤眞一 (2016) ソーシャル・キャピタル—可視化される「絆」—, 福祉介護テクノプラス, 9(6), 1-5.
52. 佐藤眞一 (2016) 高齢者心理学の歴史と展開, Aging & Health, 25(3), 12-15.
53. 佐藤眞一 (2016) ハッピー・エイジングに向けた高齢期の心のあり方, FJC（福祉

住環境コーディネータ協会）, 42, 8-9.
54. 佐藤眞一 (2017) 【巻頭言】高齢者の定義. 生老病死の行動科学, 21, 1-2.
55. 佐藤眞一 (2017) 特集を読んで,『特集　超高齢社会における共生を考える』, 未来共生学, 4, 110-125.
56. 佐藤眞一 (2017) 人生後半を豊かな心で生きる：ウェルビーイング, 美感遊創, 第183 号, 9-12.
57. 佐藤眞一 (2018) 老年行動学で読み解く親の気持ち, 第三文明, 第 697 号, 63-65.
58. 佐藤眞一 (2018) 高齢者の心と行動学①～高齢者の運転編～, ステーション, 第352 号, 65.
59. 佐藤眞一・佐藤多門 (2018) つらいことを乗り越え　希望を見出していく　ハッピー・エイジングな生き方, DUO SCENE STORY 2018 Winter, Vo.6, 6-9.
60. 佐藤眞一 (2018) 高齢者の心と行動学②～キレるお年寄り編～, ステーション, 第353 号, 65.
61. 佐藤眞一 (2018) 【巻頭言】老年臨床心理学への期待. 生老病死の行動科学, 22, 1-2.
62. 佐藤眞一 (2018) 介護を考える―認知症が進んだ家族と会話できていますか―心理学者に聞く , 通販生活・2018 年盛夏号, 196-197.
63. 佐藤眞一 (2019) 【巻頭言】万博と健康長寿. 生老病死の行動科学, 23, 1-2.
64. 佐藤眞一 (2019) 高齢者を六大事故から守るために, 第三文明, 第 716 号, 60-62.
65. 佐藤眞一 (2019) もし家族が認知症になったら, PHP からだスマイル, 2019 年 9月号, 60-65.
66. 佐藤眞一 (2020)【巻頭言】科学的エビデンスと哲学的思索. 生老病死の行動科学, 24, 1-2.
67. 佐藤眞一 (2020) 実践課題研究「日常会話形式による認知症スクリーニング法の開発と医療介護連携」日本生命財団四十年誌, p. 114.
68. 佐藤眞一 (2020) 運転に関する高齢者本人の意識－高齢の家族の免許返納のために家族ができること, 刑事事件ナビ『増え続ける高齢者の運転による自動車事故の実情や対策』（寄稿）https://keiji-pro.com/magazine/173/#toc_anchor-1-7-3
69. 佐藤眞一 (2020) 高齢者の孤独、認知症者の孤独, Medical Tribune『孤立、孤独は医療の課題だ』(寄稿) 高齢者の孤独、認知症者の孤独大阪大学大学院臨床死生学・

老年行動学教授・佐藤眞一氏に聞く
https://medical-tribune.co.jp/rensai/2020/1030533121/
70. 佐藤眞一監修 (2021) 「心」と老い, Newton, 41(1), 116-119.
71. 佐藤眞一 (2021) 【巻頭言】人生プロセスにおける新型コロナウィルスの影響. 生老病死の行動科学, 25, 1-2.
72. 島田裕之・佐谷秀行・佐藤眞一監修 (2021) 「老い」の教科書, Newton, 41(5), 20-79.
73. 佐藤眞一 (2021) 老年行動学で解説：わがまま、頑固、家事が雑・・・親の変化に戸惑ったら, 婦人公論, 106(7), 26-29.
74. 島田裕之・佐藤眞一編集協力 (2021) 老いの取扱説明書：人生 100 年時代を生き抜くための、老化の最新知識, 別冊 Newton, pp. 74-95.
75. 佐藤眞一・他編集協力 (2021) 新・記憶の教科書.『睡眠の教科書』増補第 2 版, 別冊 Newton, pp. 116-171.
76. 佐藤眞一 (2022) 原因となる病気の種類によって正しい対処法を探す, PHP Business THE 21, 39(2), 44-46.
77. 佐藤眞一 (2022) 【巻頭言】生と死と、命と～心理老年学と臨床死生学. 生老病死の行動科学, 26, 1-2.